



# 精神一到、何事か成らざらん 精神一到、何事不成 「朱子語類」

精神を集中して行えば、  
どんな難事でも成し遂げられないことはない。

## 研究室訪問



こども学科 教授 潮谷 光人

大学では、こども家庭福祉や保育実習指導担当者が、障がい者や権利擁護などとの相談支援を行っています。専門門は、障がい者福祉の分野を中心とした研究活動を行っています。現場の支援を受けている学生が毎日多く、経験を学ぶことが多いです。その中で、学生たちは、自分たちの行動や考え方を改めて見直す機会があります。

### —記憶の中、最初に自分で買った本は何でしょうか。

漫画だと思います。たまたま、北斗の拳、キン肉マンや星やつらのどれかを小学校2年生ぐらいに買ったように思います。小説だと赤川次郎や星新一などを小学校5年生ぐらいから読んでました。自分で買ったかは覚えていないですが、自分で買ったかは覚えていないです。年離れた兄の買う本を読むことも多かったです。育った施設の中には図書館もあつたため、読む本には苦労しなかつたです。

### —最近買った本は?

ゼミの学生に読みやすいように漫画の「ケーキの切れない非行少年たち」を買いました。少年院にいる

### —本を買う時、ネット書店と本屋とどちらをより多くご利用でしょうか。

もう圧倒的にネットになってしまっています。いまはふらっと本屋に行き、気になつたものを手に取るということもなくなりました。ネットだと関連書籍も出てくるので、本屋で探す時間が面倒に感じるようになってしましました。ただ、写真やアート関連の書籍は梅田の蔦屋書店でじっくり見ることもあります。

### —いま、お手元に読んでいる本は?

石川准の「アイデンティティゲーム」です。この本を手にした当時は、社会福祉を学ぶことをやめようと考え、距離を取っていましたが、障がい学で有名な石川准先生の語るアイデンティティ論に感銘を受け、もう一度社会福祉や社会学を勉強したいと考えるようになりました。

### —読書の醍醐味は?

自分のように人生に影響を与えるような一冊に出会うということでしょうか。自分の思想や言葉もさまざまな本からつくられていく感覚も多いです。それと気分転換にも活用できると考えています。

### —学生にぜひ読んでもらいたい本は?

いろんな学生の趣向もあるため、これと特定することは難しいです。自分の興味関心に従い、多くの本を読んでほしいです。

### —読書について、学生、特に新入生へのアドバイスをお願いします。

雑誌でも小説でもいいので、常に何か読んでいるという習慣が大切だと思っています。文章にいつも触れることが書く力をつけてくれますし、読むこと書くこととのストレスを減らしてくれると感じます。

特徴的な事件を犯した子どもたちを描いた漫画で、虐待回避型非行など子どもの背景を知る上で参考になると思いました。

障がい者の生活支援の流れが整理された本です。

自分はレコードの収集が趣味ですが、レコードの解説本を読むだけで音楽を聴いているような気分になりますし、アーティストの背景を知るためにインターネットより本の方が役に立つことが多いです。またアート関連の書籍なども大判の本で見ると迫力があり、見るだけでわくわくして楽しい時間となります。

### —時々読み直す本はあるでしょうか。

横田弘の「障害者殺しの思想」は何度か読み返しています。横田は、脳性麻痺の障がい者で、70年代の障がい者運動を強烈な主張と行動で盛り上げた人物です。優性思想や相談対応を行うオープンダイアローグの手法に関するものは、とても刺激を受けて一時期随分集めました。

実際に相談対応をすることもあります。その際の知識や技術の修得に役立つ内容のものは、できるだけ複数で集中して相談対応を行うオープンダイアローグの手法に関するものは、とても刺

激を受けて一時期随分集めました。相談対応を行うオープンダイアローグの手法に関するものは、とても刺

激を受けて一時期随分集めました。相談対応を行うオープンダイアローグの手法に関するものは、とても刺

激を受けて一時期随分集めました。相談対応を行うオープンダイアローグの手法に関するものは、とても刺

読む習慣をつけてみましょう!



# 古典籍と虫

国際教養・子ども学科専任講師

吉田 唯

古典籍というと聞き慣れないが、日本史や古典の教科書に載っている歴史的資料や文学のことである。例えば、「源氏物語」などである。

博物館で展示してある「源氏物語」は、素晴らしい絵師による絵と金銀豪華な刺繡がされた巻子の状態のものが多い。対して私が専門としている古典籍は、虫食いが多く、お寺で炊かれた護摩によつて煤けた状態のものや本の一部だけが残されているものも多い。その理由は、よく華やかに展示されている「源氏物語」

などは、貴族のお嫁入り道具として作られたものが多いためである。もちろん、汚い「竹取物語」や「源氏物語」もある。

古典籍の絵は、有名な絵師ばかりが描くわけではない。私がよく目にする古典籍は、私が描いた方が上手なのでは?といいたくなるぐらい酷い絵が多い。僧侶自ら描いたのだろう。福笑いなみに下手くそである。古典籍の調査で他にも面白いことがある。虫食いである。

本を食べる虫には、シミ(紙魚)とシバンムシ(死番虫)の2種類がある。シミは、英語でsilver fishと呼ばれており、銀色で魚っぽい虫だ。古典籍の調査中、よくお目にかかる。寺院で殺生をするわけにいかないので、見つけ次第、窓から出て行つてもらうことにしている。この虫は、本を嘗めることを生業としている。博物館に展示されている本で、紙が一部



いるからである。例えば「北野天神縁起」では、菅原道真が「北野社を修繕せよ」と要求する歌を虫食いの文字によって示したり、「熊野の御本地のそうし」(御伽草子)では、虫食いのお告げにより王子を発見できたり、虫食いは単なる穴ではなく、お告げをしめす穴である可能性が浮上したのである。

これから博物館で本を見るときは、字や綺麗な絵ばかりに目がいつてしまうが、虫食いや薄くなつていていたい。一方のシバンムシは、本に穴をあけてしまう虫である。フルホンシバンムシという名の種類がいるくらい、古典籍が大好きな虫である。国文学研究資料館の青木睦氏の「立川の研究者たち」(国文学研究資料館編、2017)によると、本を食べるのは幼虫の間だけで、大人になると食べずに結婚相手を探すだけというのもシバンムシの面白いところである。ただやつかいな虫で、穴により文章を読めなくするだけではなく、本を開かなくしてしまうのだ。特に大事な箇所を好んで食べてしまふ。

しかし、单なるやつかいな虫で片付けてはいけない。なぜなら、虫食いをもとにした説話が多く残されて



# 2021年度 図書館開催イベント

## 手作り絵本 コンクール



2021年度、図書館のイベントとして初めて開催することになった「手作り絵本コンクール」では、学生の皆さんが創意工夫し一生懸命に製作された手作り絵本が43作品エントリーされました。

入賞作品を選ぶのは学生の皆さん1票!! 展示期間に多くの学生の皆さんが絵本を閲覧し、気に入った作品にWebで投票を行いました。

最優秀賞には、実践保育学科2年の磯田まどかさん『さんちゃんのオムライス』

が選ばれました。12月23日(木)に表彰式が行われ、入賞した皆さんに賞状と副賞が授与されました。入賞された皆さん、おめでとうございました。

多くの皆さんにエントリーしていただき、また、投票に参加していただき、ありがとうございました。



実践保育学科2年 磯田 まどかさん  
『さんちゃんのオムライス』



実践保育学科2年 山田 逸子さん  
『なにがみえる?』



実践保育学科2年 大西 千捺さん  
『ぼく・わたしのすきない?』



特別賞  
こども学科3年  
木虎 莉奈さん  
『ポケットパン』



特別賞  
実践食物学科2年  
人見 友菜さん  
『ぎゅつ。』

入賞おめでとう  
ございます

## 学生Web選書

2021年10月19日(火)から11月19日(金)の間、学生Web選書を開催しました。

昨年に引き続き、Webサイトを利用し選書することにしました。

10名の学生が参加、56冊の選ばれた図書は「学生選書コーナー」に並んでいます。貸し出しもできますので皆さんぜひご利用ください。



### 参加者のコメント

図書館に入れる本を自分で選ぶ機会があるなど知らず、今回、参加できて良かったです。

また、自分が選んだ本を図書館を利用する他の学生さんが読んでくれるのも嬉しく、楽しみです。

実践食物学科2年  
寺本 早紀さん



# 新着図書

先生の推薦



発酵暮らし  
山田奈美

(請求記号 596/Y19)

実践食物学科 濱田 尚美 准教授

## 『菌とともに生きる「発酵暮らし」』

著者: 山田 奈美  
(出版: 家の光協会、2021年8月20日)

健康に良いと注目されている「発酵食品」。それぞれの食材が微生物の働きで栄養を増し、深い旨味を感じさせる食品に変化していきます。ゆったりとした時間を過ごせるようになったら、自然に囲まれた生活空間で、自分の為に作った「発酵食品」でお料理をしたい…。そう思ってくれる1冊です。

こども学部 こども学科 渡邊 由之 教授

## 『臨床の砦』

著者: 夏川 草介(出版: 小学館、2021年4月23日)

誰にでも、その人だけの日常がある。普段の生活と言ってもよい。誰もが過ごす普段の生活は、途絶えることのない不断のものではない。それを、今を生きる私たちは嫌というほど思い知らされた。新型コロナウイルス感染症という災禍によって。

『臨床の砦』の当事者・主人公は、医療従事者である。それも新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れ、その治療にあたる医師たちの物語である。この作品は、日常が破綻する瞬間をあぶり出すだけでなく、目を凝らさないと見えない世界を垣間見せる。それは、当事者のリアリティである。搬送中にアイソレータという隔離袋に入る患者、その呼吸や酸素飽和度、医師たちの緊迫感やバックヤードでの会話、院内感染の恐れ、その中でも患者と家族の想いを汲み取ろうとする努力、数字を強調する報道からは伝わらないようなリアリティが、この作品にはある。

著者は、医師兼作家であるため、その描

写は限りなく現実に近い。作中での緊急事態宣言の発出も2021年1月7日で、現実と同じである。読後、印象に残った場面は、院内感染が拡かりを見せたシーンであった。そこに主人公のこんなセリフがある。

「原因は、看護師の不注意や、気の緩みにあるのではなく、感染対策さえ十分に履行できないほどの激務を現場に強いた我々にあると思います」

いま、オミクロン株が猛威を振るう。感染者数は過去最高を更新する日々である。医療従事者の激務を慮ることしかできないが、何が大事なのか、それを考える余裕を奪うのも災禍の負の側面であると、思い知らされた。さて、我々はどうか。



(請求番号 913.6/N58)

実践保育学科 後藤 由美 講師

## 『教師という接客業』

著者: 齊藤 浩  
(出版: 草思社、2020年7月3日)

近年では、教師が絶対的存在ではなくなった。

ある公立学校の校長は、「学校は従来のような聖域ではなく、先生も聖職者と見られている時代ではありません。子どもや保護者が大いに満足できるように、サービス業としての視点も大事にしてください。(後略)」と言ったという。



(請求記号 374.3/Sa25)

いじめ、不登校、コンプライアンスの強化、保護者同士のSNS…そんな中、どうやって児童・生徒の将来のための教育ができるのか、機能不全に陥りかけている学校の実態が生々しく綴られている。

東大阪大学  
東大阪大学短期大学部  
附属図書館

編集・発行

2022年4月1日発行



大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1  
TEL 06-6782-2837  
FAX 06-6782-2839  
<http://www.higashiosaka.ac.jp/~library/>

2021年1月～12月の利用数	
・貸出冊数	7,677冊
・入館者数	6,671冊
・視聴覚資料	3,475タイトル
・雑誌	621タイトル
・35カ国・地域：25言語数	416冊

2021年12月末現在のデータ

データでみる図書館